

科目名		作業関連疾患予防学論文指導	
科目責任者	大神 明	(作業関連疾患予防学 教授)	
担当者	池上 和範	(作業関連疾患予防学 准教授)	
開講時期:	2年次	単位数:	6 単位
<p>● 科目の教育目標</p> <p>一般目標 (GIO)</p> <p>職域における産業保健の課題として、特に先進諸国においては従来の職業性疾病に代わり重要な対策対象となっている作業関連疾患の範囲、就業との関連、発症および進展予防に資する対策について理解し、現場での対策、教育の方法を習得する。受講者は個々の範疇に属する疾患については基礎知識を有することを前提して、事業においては対策実施の企業活動上の意義、効果についてのエビデンスを提示し、適宜ケースメソッド教授法による討論を組み入れ、また演習ではグループワークによる課題への対策案の作成を通じて、実践力を身につけることを図る。</p> <p>行動目標 (SBOs)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 産業衛生学における作業関連疾患予防学の研究テーマを見いだすことができる。 2) 自分のテーマの産業衛生学における意義を見いだすことができる。 3) 自分のテーマの作業関連疾患予防学における意義を見いだすことができる。 4) 自分のテーマを実際のフィールドで疫学的・統計学的に解析することができる。 5) 作業関連疾患予防学諸問題の調査結果を系統的に論述することができる。 6) 作業関連疾患予防学および基礎理論の応用を論述することができる。 7) 作業関連疾患に対する予防的な考え方を調査結果に応用することができる。 8) 予防医学の考え方・調査方法を実際のフィールド調査に応用することができる。 9) 国際的な作業関連疾患予防学の特徴について論述することができる。 10) 国内外の予防医学研究に関する倫理指針の特徴について論述することができる。 11) 作業関連疾患予防学の有効性についてを論述することができる。 12) 企業等の予防医学的フィールド調査研究の倫理的要点について論述することができる。 13) 日本の作業関連疾患予防政策・制度について論述することができる。 14) 作業関連疾患予防政策・制度の国際比較について論述することができる。 15) 企業の社会的責任としての作業関連疾患予防について論述することができる。 			
● 評価方法	プレゼンテーション40%、論文作成40%、討論参加20%等で総合評価する。		
● 参考文献	指導の中で必要に応じ紹介する。		

● 授業内容

内容	担当教員
選択した論文テーマに関して、研究手法や研究倫理などの指導を行うとともに、得られた結果の解釈の仕方、まとめ方についての実践的な論文指導を行う。	大神
論文の構造・構成・記載法さらに論文投稿・発表の倫理などを系統的かつ実践的に指導する。	池上
文献検索の具体的な方法について実践的に指導する。	池上